

平成26年（2014年）度

滋賀県家畜保健衛生所業務概要

2015

滋賀県家畜保健衛生所

本所

〒523-0813
滋賀県近江八幡市西本郷町226-1
TEL 0748-37-7511（代）
FAX 0748-37-4821
E-mail:ge37@pref.shiga.lg.jp

北西部支所

〒520-1611
滋賀県高島市今津町弘川249-1
TEL 0740-22-2145（代）
FAX 0740-22-6681

目 次

I	家畜保健衛生所の概要	
1	沿革	1
2	管轄	2
3	位置および交通	2
4	組織および事務分掌	3
5	職員名簿	4
6	施設の概要	5
1)	用地および建物	5
2)	建物配置図	6
7	主要物品整備状況	7
1)	主要備品	7
2)	自動車管理状況	8
8	管内の概要	9
1)	地域の特徴	9
2)	畜産の概況	9
II	平成26年度事業実績	
1	家畜防疫に関する事業	11
1)	家畜伝染病予防事業	11
(1)	総括表	11
(2)	家畜伝染病等発生状況	12
(3)	精密検査	13
(4)	立入検査	20
(5)	証明書発行状況	21
(6)	輸出入検疫対象家畜検査状況	21
2)	自衛防疫・自主管理強化総合対策	22
(1)	地域家畜自衛防疫推進協議会	22
(2)	特定疾病損耗防止事業	22
2	家畜検査事業	23
1)	病性鑑定実績	23
(1)	精密病性鑑定結果	24
(2)	精密検査・調査実施状況	26
3	家畜衛生に関する事業	27
1)	牛海綿状脳症(BSE)検査・清浄化推進	27
2)	監視・危機管理体制整備対策	27
(1)	家畜伝染病防疫対応強化	27
(2)	家畜衛生関連情報の整備	28
(3)	まん延防止円滑化対策	29
(4)	病性鑑定ネットワークの構築	30

3)	生産性向上対策	30
(1)	慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減	30
4)	畜産物の安全性向上	30
(1)	生産衛生管理体制整備	30
(2)	鶏卵衛生管理体制整備	31
(3)	動物用医薬品危機管理対策	31
(4)	飼料安全性・品質改善対策	32
4	動物薬事	33
1)	申請・届出等の状況	33
(1)	市町別業者数	33
(2)	申請・届出の事務処理状況	34
2)	薬事監視強化事業	34
(1)	立入検査状況	34
5	獣医事	35
1)	届出状況	35
(1)	飼育動物診療施設	35
(2)	事務処理状況	35
2)	立入検査状況	35
6	家畜改良増殖事業	36
1)	家畜人工授精に関する業務	36
(1)	家畜人工授精師免許関係事務	36
(2)	家畜人工授精所開設等届出	36
III	参考資料	
1	学会・業績等の発表	37
2	講習会等受講状況	39
1)	家畜衛生講習会	39
2)	家畜衛生研修会	39
3)	動物用医薬品危機管理対策研修会	39
4)	その他	39
3	家畜衛生関係手数料	40
4	家畜飼養状況の概要	42

I 家畜保健衛生所の概要

I 家畜保健衛生所の概要

1 沿革

家畜保健衛生所法（昭和25年3月18日法律第12号）に基づき、滋賀県家畜保健衛生所条例（昭和25年10月3日滋賀県条例第60号、平成21年4月1日廃止）、滋賀県行政機関設置条例（平成21年1月23日滋賀県条例第1号）により設置。

- | | | |
|-------|-----|--|
| 昭和26年 | 4月 | 坂田郡春照村に湖北家畜保健衛生所を設置（管轄:長浜市、坂田郡、東浅井郡）
高島郡今津町に湖西家畜保健衛生所を設置（管轄:高島郡） |
| | 8月 | 甲賀郡水口町に甲賀家畜保健衛生所を設置（管轄：甲賀郡）
栗太郡治田村に湖南家畜保健衛生所を設置（管轄：栗太郡、野洲郡） |
| | 12月 | 彦根市に湖東家畜保健衛生所を設置（管轄：彦根市、犬上郡、愛知郡） |
| 昭和30年 | 9月 | 機構改革により、畜産奨励業務を併せて実施することとなる
蒲生郡北比都佐村の種畜場（現畜産技術振興センター）内に日野家畜保健衛生所を設置（管轄：近江八幡市、八日市市、蒲生郡、神崎郡）
大津市の県庁内に大津家畜保健衛生所を設置（管轄：大津市） |
| 昭和31年 | 5月 | 湖北家畜保健衛生所が春照村から長浜市勝町に移転 |
| 昭和32年 | 5月 | 日野家畜保健衛生所が近江八幡市に移転し、中部家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和34年 | 12月 | 大津家畜保健衛生所が滋賀郡堅田町に移転し、滋賀家畜保健衛生所と改称 |
| 昭和36年 | 4月 | 伊香郡木之本町に伊香郡を管轄する湖北家畜保健衛生所木之本支所を設置 |
| 昭和38年 | 8月 | 長浜市小堀町に湖北家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和39年 | 2月 | 湖西家畜保健衛生所庁舎を新築 |
| 昭和40年 | 5月 | 栗太郡栗東町小柿に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和43年 | 4月 | 機構改革により、畜産奨励業務は県事務所に移行することとなる
甲賀と湖南の両家畜保健衛生所を統合し、甲賀郡水口町に湖南家畜保健衛生所を整備
湖東と中部の両家畜保健衛生所を統合し、近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を整備
湖北家畜保健衛生所木之本支所は本所に統合 |
| 昭和44年 | 3月 | 甲賀郡水口町名坂に湖南家畜保健衛生所を新築移転 |
| 昭和45年 | 3月 | 近江八幡市西本郷町に湖東家畜保健衛生所を新築 |
| 昭和47年 | 3月 | 滋賀家畜保健衛生所を廃止し、湖南家畜保健衛生所に統合 |
| | 4月 | 機構改革により、畜産課内に病性鑑定係を設け、県庁別館に試験室を設置 |
| 昭和55年 | 3月 | 病性鑑定施設を湖東家畜保健衛生所敷地内に新築移転 |
| 昭和57年 | 4月 | 機構改革により、病性鑑定係は湖東家畜保健衛生所に組織替え |
| 平成6年 | 4月 | 畜産関係組織再編整備により、湖南、湖東、湖北、湖西の4家畜保健衛生所を廃止し、新たに県下全域を統括する滋賀県家畜保健衛生所を近江八幡市西本郷町（旧湖東家畜保健衛生所施設）に設置
併せて、滋賀県家畜保健衛生所内に家畜検査センターを設置して畜産物の品質、安全性検査の充実を図る |
| 平成12年 | 4月 | 「地方分権法」の施行に伴う県組織の改革により、グループ制が導入され、保健衛生と防疫の2グループを設置 |

- 平成17年 4月 緊急時の防疫対応を充実するため、畜産技術振興センター西部指導所を高島市、大津市、滋賀郡および湖北地域（米原市を除く）を管轄する家畜保健衛生所北西部支所に組織改編するとともに、畜産技術振興センターの技術指導業務を兼務することとなる
- 平成22年 3月 家畜検査センター施設を新築
8月 滋賀県家畜保健衛生所本所を改修
- 平成23年 1月 旧検査センターを BSE 検査室、冷蔵庫室および資材倉庫に改修
- 平成27年 1月 滋賀県家畜保健衛生所北西部支所の事務所を本館から別館に移転

2 管 轄

本所と北西部支所の管轄地域は以下のとおりとなっている。

家畜保健衛生所	農業農村振興事務所	管 轄 市 町
本 所	大津・南部のうち	草津市、守山市、栗東市、野洲市
	甲 賀	甲賀市、湖南市
	東近江	近江八幡市、東近江市、日野町、竜王町
	湖 東	彦根市、愛荘町、豊郷町、甲良町、多賀町
	湖 北のうち	米原市
北西部支所	大津・南部のうち	大津市
	湖 北のうち	長浜市
	高 島	高島市

3 位置および交通

【本所】

近江八幡市西本郷町226番地の1 郵便番号 523-0813
 電 話：(0748) 37-7511 FAX：(0748) 37-4821
 交通：JR西日本 琵琶湖線（東海道本線）近江八幡駅下車 徒歩7分

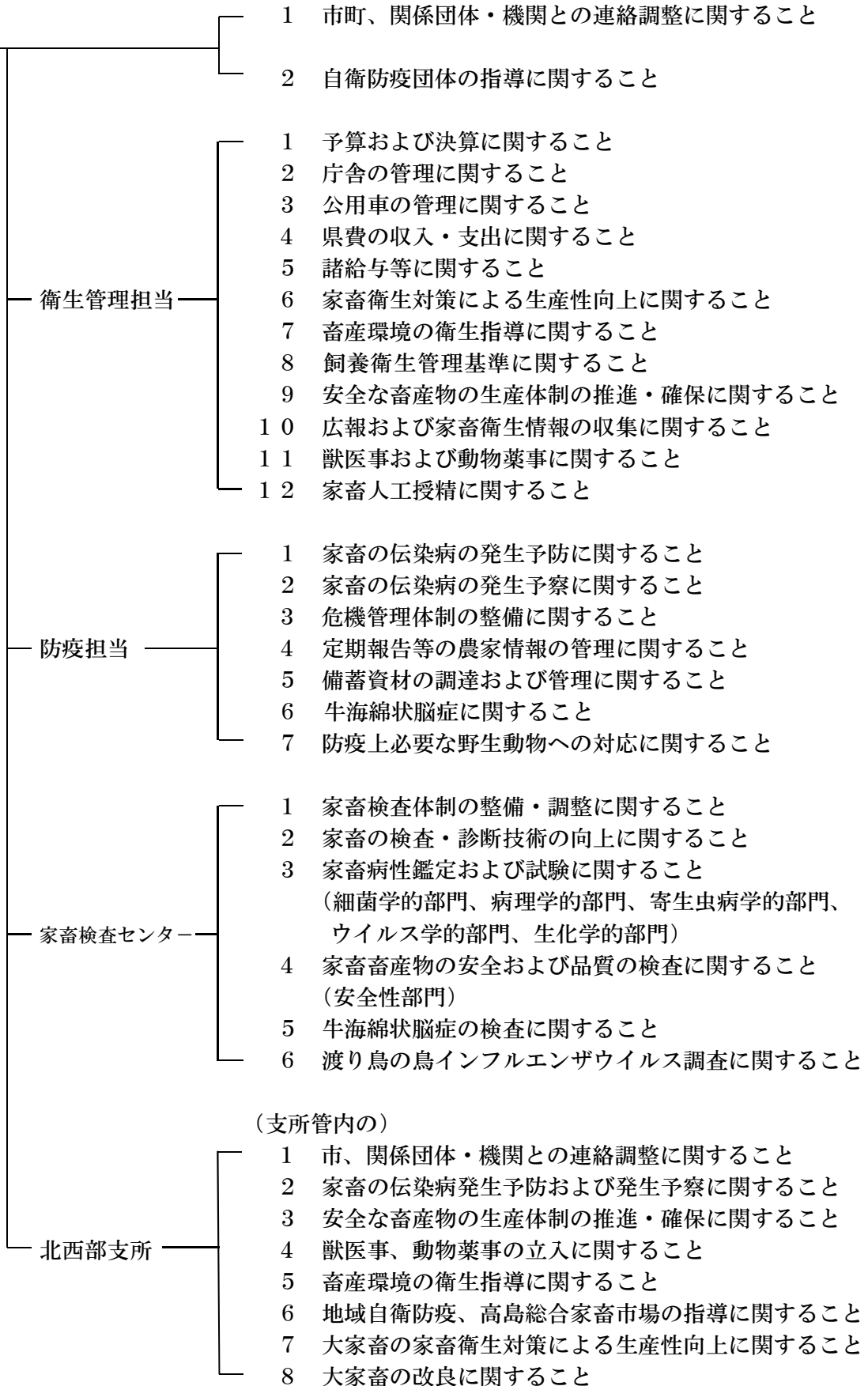
【北西部支所】

高島市今津町弘川249番地の1 郵便番号 520-1611
 電 話：(0740) 22-2145 FAX：(0740) 22-6681
 交通：JR西日本 湖西線近江今津駅下車 徒歩15分

4 組織および事務分掌

所 長

次 長



5 職員名簿

所 長	福井 英彦	次 長	渡辺 千春
-----	-------	-----	-------

衛生指導担当

主 幹(GL)	富田 文博
副 主 幹	藤井 賢一
副 主 幹	森川 武司
主 査	市川 量子
主任技師	小森 雅子
主任技師	川本 友香
主任技師	坪根 麻由子

防疫担当

副 参 事(GL)	橋本 久彦
副 主 幹	宮坂 光徳
主 査	浅井 素子
主任技師	山中 美佳

家畜検査センター

所 長	中西 幸司
副 主 幹	平澤 康伸 (病理学、寄生虫病学の部門)
主 査	三松 美智子 (細菌学的部門、安全性部門)
主任技師	内本 智子 (ウイルス学的部門)
技 師	小畑 敦俊 (生化学的部門)

北西部支所

支 所 長	山路 泰介
主 幹	布藤 雅之
副 主 幹	富澤 泰
主 査	田中 政嗣
主任技師	田中 千香子

6 施設の概要

1) 用地および建物

【本 所】

敷地面積 2,116.33 m²

建 物

本館	(鉄筋コンクリート造2階建)	369.22 m ²
家畜検査センター	(鉄筋コンクリート造2階建)	463.93 m ²
焼却炉棟		40.59 m ²
解剖室	(解剖室棟)	48.56 m ²
BSE 検査室	(解剖室棟)	49.16 m ²
冷蔵庫室(前室含む)	(倉庫棟)	71.30 m ²
資材倉庫書庫	(倉庫棟)	98.45 m ²
動物飼育室		18.00 m ²
上屋(1) S61		18.80 m ²
上屋(2) H22		22.40 m ²

計 8棟 1,200.41 m²

【北西部支所】

敷地面積 3,946.31 m²

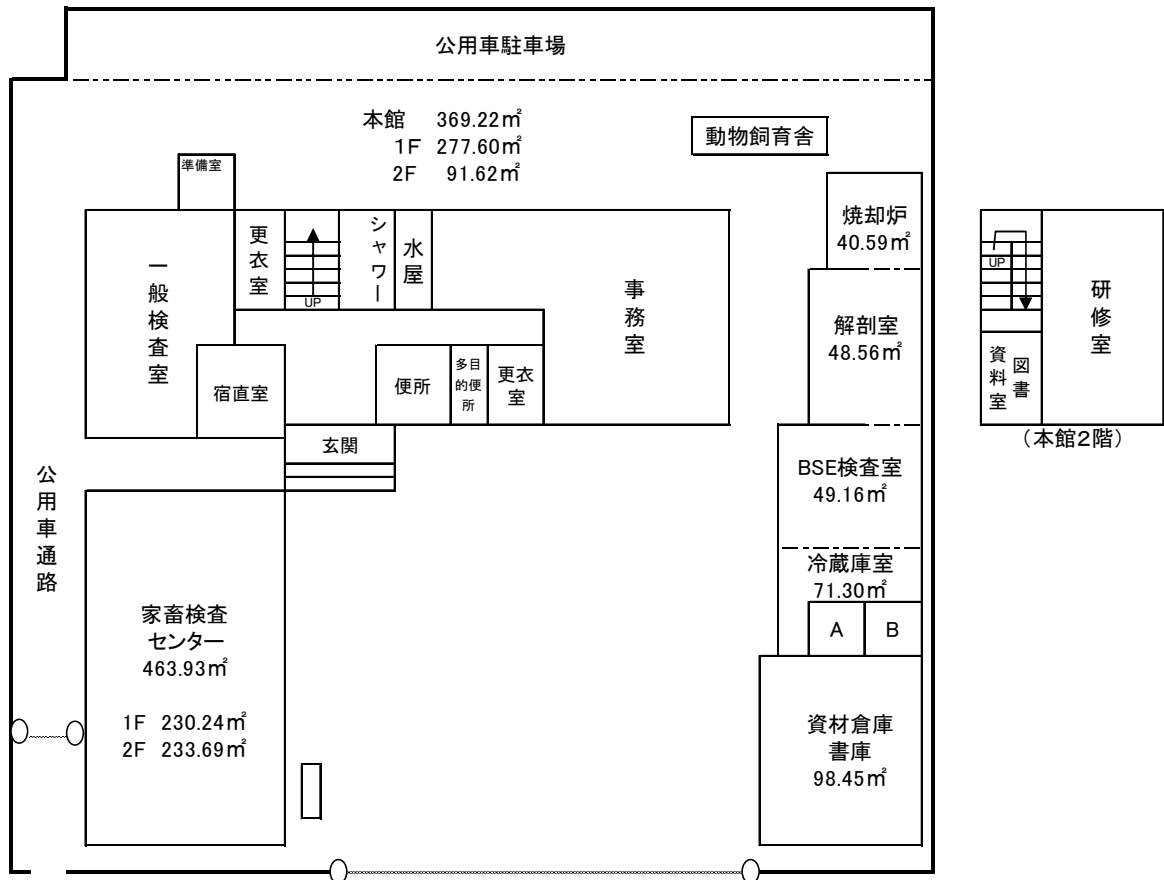
建 物

本館	(鉄筋コンクリート造平屋建)	180.00 m ²
別館	(鉄筋コンクリート造2階建)	348.94 m ²
書庫および解剖室	(補強コンクリートブロック平屋建)	43.77 m ²
車庫	(鉄骨折半平屋建)	33.63 m ²

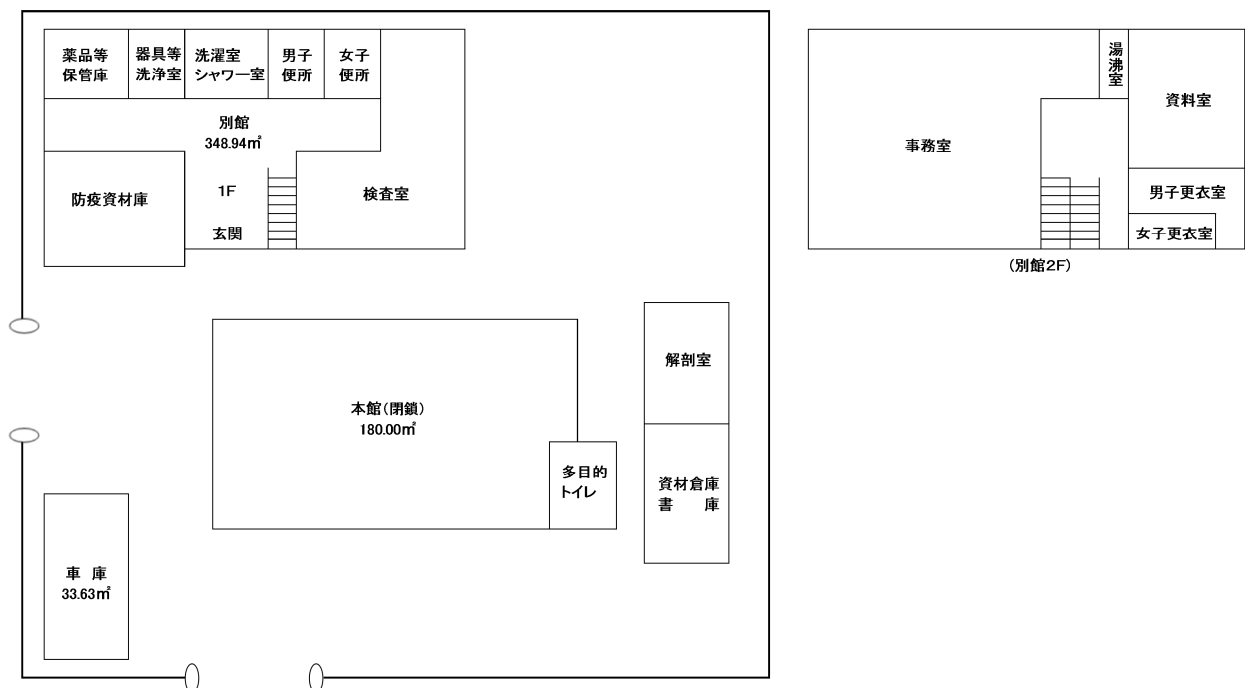
計 4棟 606.34 m²

2) 建物配置図

【本所】



【北西部支所】



7 主要物品整備状況

1) 主要備品

品名	規格・型式	数量	取得年月日	備考
自記分光光度計	330 型	1	S55. 3. 31	日立
ガスクロマトグラフ	GC-4CMPFE	1	S55. 3. 31	島津
顕微鏡(落射蛍光)光源装置	EFD 型	1	S59. 5. 24	ニコン
真空自動固定包埋装置	VRX-23	1	S60. 6. 18	サクラ精機
デンストメーター	HAD-501 型	1	S61. 10. 17	平沼
超音波診断装置	SSD-500	1	H 3. 2. 4	富士平
嫌気性培養装置	EAN-140	1	H 4. 3. 27	タバイ
嫌気性培養槽	FA-9, J-45	1	H 4. 3. 27	平山
組織回転培養装置	HDR-12-T	1	H 6. 9. 29	ヒラサワ
排気式流し台	MAE-150	1	H 6. 11. 11	カヤガキ
ヨーネ病診断システム	SJ-109-51、 101-55	1	H 8. 12. 20	三光純薬
電気泳動装置	CHEF-DR II	1	H 9. 12. 25	バイオラットラボラトリス
電気泳動画像解析システム	AGFA ARCUS2	1	H10. 11. 27	東洋紡
凍結切片作製装置	LEX-6100	1	H12. 8. 3	ヤマト
多項目血清検査機器	3500V	1	H13. 10. 5	富士
超低温フリーザー	MDF-493AT	1	H14. 1. 15	サンヨー
自動包埋装置	RE-12DM-2	1	H14. 1. 15	サクラ
マイクロプレートリーダー	405	1	H14. 1. 15	大日本製薬
石灰乳塗布用消毒器	ポラント E	1	H14. 1. 22	富士平
原子吸光光度計	A-1000	1	H14. 10. 30	日立
動物性廃棄物焼却炉	NS-30SD	1	H15. 3. 24	不二越
高速液体クロマトグラフ	L-2000	1	H15. 9. 10	日立
高速液体クロマトグラフ 蛍光検出器	L-2000	1	H16. 12. 9	日立
超低温フリーザー	MDF - 792AT	1	H17. 3. 18	サンヨー
リアルタイムPCRシステム	7500-1	1	H18. 3. 7	アプライドバイオシステムズ
落射蛍光顕微鏡および撮影装置	BX51	1	H20. 2. 27	オリンパス
ドラフトチャンバー	CBR-Vc21-FN	1	H22. 3. 19	島津
バイオハザード対策用 安全キャビネット	SCV-1307EC II AB3	2	H22. 3. 25	日立
プレハブ式冷蔵庫 VHB-SUS-BKN	UCL-P5	1	H22. 10. 19	三菱電機
ビーズ式多検体細胞破碎装置	MB901U (S)	1	H23. 9. 20	安井器械
分光分析装置(吸光度測定用マ イクロプレートリーダー)	51119250/M	1	H25. 9. 12	サーモフィシャー
全自動血球計数器	MEK-6450	1	H26. 6. 19	日本光電

取得金額 1,000,000 円以上

2) 自動車管理状況

【本所】

車種 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
普通貨物自動車 1990cc	11 た 3757	H7. 2. 2	H7. 2. 2	19,101
小型貨物車 1290cc	400 せ 2181	H16. 6. 4	H16. 6. 4	85,896
小型貨物車 1780cc	400 せ 6676	H17. 7. 4	H17. 7. 4	35,274
小型貨物車 1490cc	400 そ 804	H18. 6. 19	H18. 6. 19	86,928
小型貨物車 1490cc	400 そ 4722	H19. 6. 8	H19. 6. 8	89,377
小型乗用車 1300cc	501 ち 6071	H22. 11. 20	H22. 11. 20	28,298

【北西部支所】

車種 (排気量)	登録番号	取得 年月日	配車 年月日	総走行キロ数 km
軽自動車乗用 650cc	50 と 4026	H9. 6. 13	H17. 11. 2	103,900
小型貨物車 1490cc	400 そ 7985	H20. 6. 2	H20. 6. 2	93,833

8 管内の概要

1) 地域の特徴

滋賀県は日本列島のほぼ中心に位置し、東南は三重県、東は岐阜県、西は京都府、北部を福井県に接し、近畿地域の北端部に当たる。県土中央に我が国最大の淡水湖である琵琶湖が横たわり、全面積（4,017 km²）の約1/6を占めている。

本県の気候は、近江盆地を形成し、琵琶湖の影響を受けて温和なものになっており、全体としておおむね内陸的な特徴があるものの、県南部は瀬戸内型、北西部は北陸型、東北部は東海型気候の影響を受け、地域的変化に富んでいる。このため、北西部は豪雪に見舞われる年があり、南部には干ばつに備えた溜池も多い。

琵琶湖に由来する「近つ淡海（あわうみ）」近江の国は、古くから農耕文化が発達するとともに、我が国の東西、南北を結ぶ交通の要衝として、主要な街道が走っていた。現在も、物資輸送の大動脈である幹線道路や鉄道が通じ、交通網の要となっている。また、全国でも数少ない人口増加県の1つであり、京阪神のベッドタウンとして開発が進み、県南部、東部を中心に農業地帯の都市化、混住化が進行している。

本県農業は、古来から稲作が中心で、全耕地面積52,800haのうち水田が92.2%となっている（平成26年耕地面積調査）。農家戸数は20,183戸で、うち主業農家は7.7%であり、また基幹的農業従事者は農業就業人口25,346人の46.0%となっている（2015年農林業センサス）。県の農業産出額は554億円であり、畜産は112億円で20.2%を占め、米の54.5%（302億円）に次ぎ、第2位となっている（平成26年生産農業所得統計）。

2) 畜産の概況

平成27年2月1日現在の飼養戸数・頭羽数は、乳用牛66戸3,350頭、肉用牛103戸17,790頭、豚12戸7,098頭、採卵鶏38戸392,323羽、肉用鶏14戸99,530羽である。農家は、その大多数が主業農家であり、かつ自立経営体であるが、就業者の高齢化と後継者不足に加え、畜産物の消費低迷、飼料価格高騰等から、いずれの畜種においても取り巻く環境は厳しいものがある。

大家畜は、1戸当たり飼養頭数が、乳用牛50.8頭、肉用牛172.7頭と大規模化している。また、豚、採卵鶏、肉用鶏では、経営規模は小さいものの地場消費と結びついた堅実な経営が見られる。

乳用牛

本県の酪農は、京阪神の大消費地を控え、飲用牛乳向けを中心とした生乳生産を行っており、稲作との複合経営が主体となっている。飼養農家は東近江地域に最も多く、甲賀、湖西地域がこれに次ぐ。

飼料価格高騰による収益性の悪化や畜主の高齢化等により、前年に比べ、飼養戸数は2戸減少し、飼養頭数は186頭減少した。

肉用牛

本県の肉用牛は、肥育経営が主体であり、東近江地域を中心に営まれている。特に和牛は、産地から素牛を導入し、高度な肥育技術で高品質な肉牛に仕上げるのが特徴で、「近江牛」の銘柄で全国的にも知られており、さらなるブランド力の向上に農家および関係機関が積極的に取り組んでいる。東近江地域では、和牛の繁殖から肥育までの一貫経営が徐々に拡大している。また、マカオ、シンガポール、タイに向けた輸出が行われている。

前年に比べ、飼養戸数が11戸減少した一方で、飼養頭数は和牛肥育牛で481頭の増加、繁殖牛では83頭（哺育育成牛含む）増加した。1戸当たりの飼養頭数は172.7頭であり、全国のトップレベルにある。

豚

本県の養豚は、水稲との複合経営が主体となっており、東近江地域を中心として繁殖・肥育一貫経営を展開している。肥育専門の経営はわずかで規模も小さい。畜主の高齢化、周辺の都市化により飼養戸数は減少傾向であるが、食品製造副産物を飼料に用いた経営体では、さらなる規模拡大が進められている。

前年に比べ、飼養戸数は2戸増加したが、飼養頭数は1,115頭減少した。1戸当たり飼養頭数は591.5頭となっている。

採卵鶏

全国的に見て本県の経営規模は小さく、水稲との複合経営が中心となっているが、地場消費と結びついて有利な販売を行う経営が多い。飼養農家の所在は東近江地域が中心となっている。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は7戸減少し、飼養羽数は25,795羽減少した。

肉用鶏

小規模農家が多く、東近江、甲賀、湖東地域を中心に食鶏販売と結びついた経営を行っている農家が多い。滋賀県畜産技術振興センターで開発された特産鶏「近江しゃも」は需要が固定してきており、販路の拡大・安定を模索している。

前年に比べ、100羽以上の飼養戸数は1戸減少したが、飼養羽数は23,880羽増加した。

馬

湖南地域の栗東市には日本中央競馬会（JRA）のトレーニングセンターがあり、常時2,000頭前後の競走馬が繋養されている。甲賀、東近江地域を含めた周辺地域には牧場が散在し、これらを含め総数は3,493頭となっている。

蜜蜂

本県には業として転飼養蜂を営む者は少なく、レンゲ、トチ、その他雑蜜を対象に県内で移動または定置採蜜する養蜂家と、ハウス果菜や果樹の交配用に飼育する農家など98戸、1,395群が飼育されている。

Ⅱ 平成26年度 事業実績

II 平成26年度事業実績

1 家畜防疫に関する事業

家畜伝染病予防法（昭和26年法律第166号、以下「法」という。）に基づく検査等を実施するとともに、自衛防疫組織による予防接種や事業の推進を指導するなど、家畜伝染性疾病的の発生の未然防止に重点をおいた事前対応型の防疫体制の維持に努めた。

1) 家畜伝染病予防事業

家畜伝染病等の発生予防ならびにまん延防止のための検査を、次のとおり実施した。

(1) 総括表

区分	疾 病 名	対象家畜	実施頭羽群数		根拠法令
			実頭数	延頭数	
精 密 検 査	牛海綿状脳症	牛	183	183	特措法
	牛ブルセラ病	〃	1,679	1,680	5条
	牛ヨーネ病	〃	2,489	2,490	5、51条
	牛流行熱	〃	50	199	5条
	イバラキ病	〃	50	199	〃
	アカバネ病	〃	50	199	〃
	チュウザン病	〃	50	199	〃
	アイノウイルス感染症	〃	50	199	〃
	牛白血病	〃	2,996	2,996	51条
	牛ウイルス性下痢・粘膜病	〃	2,751	2,751	〃
	牛ロタウイルス病	〃	6	6	〃
	牛パラインフルエンザ	〃	17	17	〃
	牛RSウイルス病	〃	38	38	〃
	牛サルモネラ症	〃	2	2	〃
	馬伝染性貧血	馬	3,898	3,898	5条
	豚コレラ	豚	163	163	51条
	オーエスキー病	〃	1,063	1,063	〃
	豚繁殖・呼吸障害症候群	〃	338	338	〃
	豚流行性下痢	〃	248	248	〃
	豚インフルエンザ	〃	1	1	〃
高病原性鳥インフルエンザ(抗体)	鶏	955	955	5条	
高病原性鳥インフルエンザ(ウイルス分離)	〃	500	500	〃	
ひな白痢(種鶏)	〃	160	160	〃	
マイコプラズマ病(MG)(種鶏)	〃	160	160	51条	
マイコプラズマ病(MS)(種鶏)	〃	160	160	〃	
ニューカッスル病(種鶏)	〃	48	48	〃	
ニューカッスル病	〃	450	450	〃	
高病原性鳥インフルエンザ(簡易検査)	〃	92	92	〃	
マレック病	〃	3	3	〃	
鶏痘	〃	1	1	〃	
高病原性鳥インフルエンザ	あひる	20	20	5条	
ニューカッスル病	〃	15	15	51条	
腐蛆病	蜜蜂	874	874	〃	
伝達性海綿状脳症	緬羊・山羊	3	3	〃	

区分	疾 病 名	対象家畜	実施頭羽群数		根拠法令
			実頭数	延頭数	
臨床検査	牛伝染性疾病	牛	44,752	44,752	51条
	豚伝染性疾病	豚	26,697	26,697	〃
	鶏伝染性疾病	鶏	1,775,543	1,775,543	〃
	緬羊・山羊伝染性疾病	緬羊・山羊	102	102	〃
	あひる伝染性疾病	あひる	31,752	31,752	〃
	蜜蜂伝染性疾病	蜜蜂	800	800	〃
	馬伝染性疾病	馬	669	669	〃

(2) 家畜伝染病等発生状況

①家畜伝染病 法第2条第1項の規定による疾病 発生なし

②家畜伝染性疾病 法第4条第1項に規定による届出義務のある疾病

病 名	家畜の種類	発生または届出年月日	発生頭羽群数
レプトスピラ症	犬	平成26年 4月15日	1
牛白血病	牛	平成26年 6月 2日	1
牛白血病	牛	平成26年 6月 4日	1
牛白血病	牛	平成26年 7月 7日	1
牛白血病	牛	平成26年 7月 9日	1
牛白血病	牛	平成26年 7月14日	1
牛白血病	牛	平成26年 8月 6日	1
レプトスピラ症	犬	平成26年 8月17日	1
牛白血病	牛	平成26年 8月19日	1
牛白血病	牛	平成26年 8月19日	1
牛白血病	牛	平成26年 8月19日	1
マレック病・鶏痘	鶏	平成26年 8月22日	1
牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	平成26年 9月 3日	1
レプトスピラ症	犬	平成26年 9月24日	1
牛白血病	牛	平成26年10月14日	1
牛白血病	牛	平成26年10月17日	1
牛ウイルス性下痢・粘膜病	牛	平成26年11月14日	1
牛白血病	牛	平成26年11月17日	1
アカリダニ症	蜂	平成27年 1月 6日	1
牛白血病	牛	平成27年 1月30日	1
牛白血病	牛	平成27年 3月 4日	1

(3) 精密検査

a 牛海綿状脳症対策特別措置法、および家畜伝染病予防法第5条に基づき、下記の検査を実施した。

①牛海綿状脳症検査

牛海綿状脳症対策特別措置法に基づき、牧場等において発生した24カ月齢以上の死亡牛について、検査を実施した。

市 町 名	検 査 頭 数			検 査 結 果		
	乳用牛	肉用牛	計	患 畜	疑似患畜	健 康
愛荘町	3	0	3	0	0	3
近江八幡市	26	21	47	0	0	47
大津市	1	0	1	0	0	1
甲賀市	29	2	31	0	0	31
甲良町	0	1	1	0	0	1
高島市	33	9	42	0	0	42
多賀町	3	0	3	0	0	3
豊郷町	1	1	2	0	0	2
長浜市	1	0	1	0	0	1
東近江市	15	3	18	0	0	18
日野町	9	12	21	0	0	21
米原市	3	0	3	0	0	3
竜王町	2	8	10	0	0	10
合 計	126	57	183	0	0	183

②牛のブルセラ病検査

県下の乳用牛および肉用牛の繁殖牛(種雄牛を含む)を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	5	349	0	0	349
甲賀市	8	445	0	0	445
高島市	3	414	0	0	414
長浜市	1	16	0	0	16
日野町	11	371	0	0	371
〃		(1)	(0)	(0)	(1)
竜王町	3	84	0	0	84
合 計	31	1,680	0	0	1,680

注：()は再検査頭数

③牛のヨーネ病検査

県下の乳用牛および肉用牛の繁殖牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	18	815	0	0	815
甲賀市	9	464	0	0	464
高島市	5	425	0	0	425
長浜市	3	39	0	0	39
日野町	12	538	0	0	538
〃		(1)	(0)	(0)	(1)
竜王町	4	87	0	0	87
合 計	51	2,369	0	0	2,369

注：()は再検査頭数

④牛流行熱、イバラキ病、アカバネ病、チュウザン病およびアイノウイルス感染症の発生予察検査
発生予察のため、ワクチン未接種の未越冬牛の抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果				
			牛流行熱	イバラキ病	アカバネ病	チュウザン病	アイノウイルス感染症
大津市	2	2	0	0	0	0	0
甲賀市	3	13	0	0	0	0	4
高島市	2	6	0	0	0	0	0
長浜市	2	6	0	0	0	0	0
東近江市	4	11	0	0	0	0	4
彦根市	1	5	0	0	0	0	0
日野町	1	7	0	0	0	0	0
合 計	15	50	0	0	0	0	8

⑤馬伝染性貧血検査

県下に飼育されているすべての馬を対象に、検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
大津市	4	15	0	0	15
甲賀市	14	597	0	0	597
高島市	5	9	0	0	9
豊郷町	1	10	0	0	10
長浜市	3	32	0	0	32
東近江市	7	119	0	0	119
日野町	3	20	0	0	20
米原市	1	1	0	0	1
守山市	1	3	0	0	3
栗東市	6	3,091	0	0	3,091
竜王町	1	1	0	0	1
合 計	46	3,898	0	0	3,898

⑥高病原性鳥インフルエンザのモニタリング調査

大津市、甲賀市、東近江市および米原市の養鶏場を対象にモニタリング調査を実施した。

月	採材羽数	抗体検査結果		ウイルス分離検査結果	
		陽 性	陰 性	陽 性	陰 性
4	40	0	40	0	40
5	40	0	40	0	40
6	40	0	40	0	40
7	40	0	40	0	40
8	40	0	40	0	40
9	40	0	40	0	40
10	40	0	40	0	40
11	40	0	40	0	40
12	40	0	40	0	40
1	40	0	40	0	40
2	40	0	40	0	40
3	40	0	40	0	40
合 計	480	0	480	0	480

⑦ひな白痢

県下に飼育されている種鶏を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	検 査 結 果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
日野町	1	1 6 0	0	0	1 6 0

b 法第51条に基づき、下記の検査を実施した。

①牛のヨーネ病検査

まん延防止のため、導入および譲渡等の移動させる牛を対象に実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			患 畜	疑似患畜	健 康
近江八幡市	7	1 6	0	0	1 6
甲賀市	2	3	0	0	3
高島市	4	1 2	0	0	1 2
東近江市	3	1 0	0	0	1 0
日野町	3	7 7	0	0	7 7
米原市	1	1	0	0	1
竜王町	1	2	0	0	2
合 計	2 1	1 2 1	0	0	1 2 1

②牛白血病検査

県下で飼育されている牛を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	2 4	9 0 6	2 1 4	6 9 2	2 3. 6
甲賀市	1 2	5 5 5	3 2 0	2 3 5	5 7. 7
高島市	6	4 7 6	1 9 2	2 8 4	4 0. 3
長浜市	3	3 9	7	3 2	1 8. 0
東近江市	1 7	1 8 7	3 1	1 5 6	1 6. 6
日野町	1 2	5 9 8	2 2 0	3 7 8	3 6. 8
守山市	1	4	0	4	0
竜王町	7	2 3 1	3 6	1 9 5	1 5. 6
合 計	8 2	2, 9 9 6	1, 0 2 0	1, 9 7 6	3 4. 0

③牛ウイルス性下痢・粘膜病

県下で飼育されている牛を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽性(抗原)	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	1 8	8 7 4	5 (2)	8 6 9	0. 6
甲賀市	1 0	4 9 5	0	4 9 5	0
高島市	5	4 0 9	3 (0)	4 0 6	0. 7
長浜市	3	3 9	0	3 9	0
東近江市	9	1 2 5	1 2 (0)	1 1 3	9. 6
日野町	1 2	6 6 0	0	6 6 0	0
竜王町	4	1 4 3	0	1 4 3	0
合 計	6 1	2, 7 4 5	2 0 (2)	2, 7 2 5	0. 7

注：陽性(抗原)の()は内数

④牛ロタウイルス病

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	3	3	3	0	100.0
東近江市	3	3	2	1	66.7
合 計	6	6	5	1	83.3

⑤牛パラインフルエンザ

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	1	6	2	4	33.3
高島市	1	3	0	3	0
日野町	1	8	0	8	0
合 計	3	17	2	15	11.8

⑥牛RSウイルス病

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	1	6	5	1	83.3
甲賀市	2	10	8	2	80.0
高島市	1	7	6	1	85.7
日野町	1	15	10	5	66.7
合 計	5	38	29	9	76.3

⑦牛サルモネラ症

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
高島市	1	2	0	2	0

⑧豚コレラ検査

県下に飼育されている豚を中心に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	3	111	0	111	0
東近江市	1	20	0	20	0
日野町	1	32	0	32	0
合 計	5	163	0	163	0

⑨オーエスキー病検査

県下全域で県外導入豚を中心に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率(%)
近江八幡市	3	837	0	837	0
高島市	1	182	0	182	0
東近江市	1	12	0	12	0
日野町	1	32	0	32	0
合 計	6	1,063	0	1,063	0

⑩豚繁殖・呼吸障害症候群

県下に飼育されている豚を中心に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率 (%)
近江八幡市	3	214	132	82	61.7
東近江市	1	28	1	27	3.6
日野町	1	96	86	10	89.6
合 計	5	338	219	119	64.8

⑪豚インフルエンザ

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果		
			陽 性	陰 性	陽性率 (%)
近江八幡市	1	4	0	4	0

⑫高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗 体 検 査 結 果	
			陽 性	陰 性
近江八幡市	6	60	0	60
大津市	5	50	0	50
草津市	1	10	0	10
甲賀市	6	60	0	60
湖南市	1	10	0	10
高島市	6	60	0	60
多賀町	1	10	0	10
長浜市	1	10	0	10
東近江市	5	50	0	50
日野町	3	30	0	30
米原市	3	30	0	30
守山市	3	25	0	25
野洲市	1	10	0	10
栗東市	3	30	0	30
竜王町	3	30	0	30
合 計	48	475	0	475

⑬マイコプラズマ病検査

県下に飼育されている種鶏を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	マイコプラズマ病 (MG)			マイコプラズマ病 (MS)		
			陽 性	疑陽性	陰 性	陽 性	疑陽性	陰 性
竜王町	1	160	75	28	57	71	15	74

⑭ニューカッスル病検査

県下に飼育されている採卵鶏および肉用鶏を対象に、抗体検査を実施した。

(採卵鶏)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
大津市	4	40	130.2
長浜市	1	5	16.0
近江八幡市	5	50	70.5
草津市	2	10	68.6
守山市	1	5	194.0
栗東市	3	15	8.4
甲賀市	5	70	39.8
野洲市	1	5	147.0
湖南市	1	10	315.2
高島市	4	30	287.4
東近江市	7	60	51.4
米原市	4	40	256.0
竜王町	2	30	71.8
多賀町	1	10	238.9
合 計	41	380	80.0

(肉用鶏)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
大津市	1	5	111.4
長浜市	1	5	13.9
守山市	1	5	9.2
甲賀市	2	20	78.8
高島市	2	15	32.0
日野町	1	10	111.4
竜王町	1	10	8.6
合 計	9	70	40.6

(あひる)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
甲賀市	1	10	19.7
高島市	1	5	10.6
合 計	2	15	14.4

(種鶏)

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
日野町	1	48	574.7

⑮高病原性鳥インフルエンザ（簡易検査）

市 町 名	検査戸数	検査頭数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
甲賀市	2	58	0	58
長浜市	1	6	0	6
日野町	2	28	0	28
合 計	5	92	0	92

⑯マレック病

市 町 名	検査戸数	検査羽数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
竜王町	1	3	3	0	0

⑰高病原性鳥インフルエンザの強化モニタリング調査（あひる）

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体検査結果	
			陽 性	陰 性
甲賀市	1	10	0	10
高島市	1	10	0	10
合 計	2	20	0	20

⑱ニューカッスル病検査（あひる）

100羽以上の家きんを飼養する農場を対象に、抗体検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査羽数	抗体価 幾何平均値
甲賀市	1	10	19.7
高島市	1	15	10.6
合 計	2	25	14.4

㉓腐蛆病検査

法第51条により、立入検査を実施した。

市 町 名	検査戸数	検査群数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
大津市	1	867	0	0	867
長浜市	1	7	0	0	7
合 計	2	874	0	0	874

㉔伝達性海綿状脳症（緬羊・山羊）

市 町 名	検査戸数	検査頭数	検査結果		
			陽 性	疑陽性	陰 性
近江八幡市	1	1	0	0	1
東近江市	1	3	0	0	3
合 計	2	4	0	0	4

(4) 立入検査

法第51条により、伝染性疾病の立入検査を実施し、各疾病の早期発見に努め、防疫の徹底を図った。

①牛の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
牛伝染性海綿状脳症	5,714	0	0	5,714
口蹄疫	15,128	0	0	15,128
ヨーネ病	2,931	0	0	2,931
牛ウイルス性下痢・粘膜病	4,474	0	0	4,474
牛伝染性鼻気管炎	8,850	0	0	8,850
気腫疽	600	0	0	600
牛サルモネラ症	2,708	0	0	2,708
ネオスポラ症	789	0	0	789
牛白血病	2,712	0	0	2,712
牛RSウイルス病	826	0	0	826
合 計	44,732	0	0	44,732

②豚の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
豚コレラ	5,517	0	0	5,517
豚口蹄疫	5,849	0	0	5,849
豚サルモネラ症	230	0	0	230
オーエスキー病	5,669	0	0	5,669
豚繁殖・呼吸器障害症候群	3,606	0	0	3,606
豚流行性下痢	5,826	0	0	5,826
合 計	26,697	0	0	26,697

③鶏の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鶏サルモネラ症	13,705	0	0	13,705
鳥インフルエンザ	1,600,533	0	0	1,600,533
伝染性気管支炎	31,200	0	0	31,200
マレック病	4,800	0	0	4,800
鶏マイコプラズマ病	12,800	0	0	12,800
ニューカッスル病	109,405	0	0	109,405
伝染性喉頭気管炎	3,100	0	0	3,100
合 計	1,775,543	0	0	1,775,543

④緬羊・山羊の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
伝達性海綿状脳症	3	0	0	3
口蹄疫	99	0	0	99
合 計	102	0	0	102

⑤あひるの伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
鳥インフルエンザ	25,042	0	0	25,042
ニューカッスル病	6,710	0	0	6,710
合 計	31,752	0	0	31,752

⑥蜜蜂の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査群数	患 畜	疑似患畜	健 康
チョーク病	400	0	0	400
アカリダニ病	400	0	0	400
合 計	800	0	0	800

⑦馬の伝染性疾病検査

疾 病 名	検査頭数	患 畜	疑似患畜	健 康
馬インフルエンザ	669	0	0	669

(5) 証明書発行状況

①法第8条に基づき、下記のとおり検査証明書を発行した。

証明書の種類		畜種	発行件数
検査証明	馬伝染性貧血	馬	3,987
	腐蛆病	蜜蜂	6

(6) 輸出入検疫対象家畜検査状況

輸入家畜の着地検疫検査および輸出予定家畜の飼養場所等における監視伝染病の発生状況の照会に対して回答を行った。

①着地検疫

実 施 期 間	動物種	頭数	輸 入 先
H26. 3. 28 ~ H26. 4. 28	馬	1	イギリス
H26. 4. 11 ~ H26. 5. 2	馬	3	アラブ首長国連邦
H26. 5. 7 ~ H26. 5. 28	馬	1	香港
H26. 5. 28 ~ H26. 6. 18	馬	1	シンガポール
H26. 10. 17 ~ H26. 11. 7	馬	3	フランス
H26. 11. 4 ~ H26. 11. 25	馬	1	オーストラリア
H26. 11. 20 ~ H26. 12. 8	馬	1	オーストラリア
H26. 12. 22 ~ H27. 1. 13	馬	5	香港

②輸出動物の飼養場所等における監視伝染病の発生状況回答

実施年月	動物種	頭数	仕 向 国
H26. 4	馬	2	香港
H26. 4	馬	2	シンガポール
H26. 9	馬	3	フランス
H26. 9	馬	1	イギリス
H26. 10	馬	4	シンガポール
H26. 10	馬	1	香港
H26. 11	馬	7	香港
H27. 1	馬	4	オーストラリア
H27. 3	馬	1	アラブ首長国連邦

2) 自衛防疫・自主管理強化総合対策

一般社団法人滋賀県畜産振興協会が自衛防疫業務を実施するにあたり、地域家畜自衛防疫推進協議会に対して、運営指導を行った。

(1) 地域家畜自衛防疫推進協議会

(平成 27 年 3 月 31 日現在)

地域推進協議会	事務局	事務担当年度	構成市町名
高 島 市	家畜保健衛生所 北西部支所	平成 6 年度～	高 島 市

(2) 特定疾病損耗防止事業

一般社団法人滋賀県畜産振興協会が特定疾病損耗防止事業で予防注射を実施するにあたり、事業推進の指導・助言を行った。

単位：頭

地 域	項 目	牛	
		牛異常産三種混合生ワクチン	
大 津 市	計 画	5 0	
	実 績	3 8	
彦 根 市	計 画	3 0	
	実 績	5 4	
長 浜 市	計 画	3 7	
	実 績	3 4	
近江八幡市	計 画	5 2 7	
	実 績	6 5 7	
甲 賀 市	計 画	3 9 2	
	実 績	5 6 7	
高 島 市	計 画	6 8 2	
	実 績	4 8 1	
東 近 江 市	計 画	7 0 1	
	実 績	9 7 8	
米 原 市	計 画	3 1	
	実 績	2 4	
日 野 町	計 画	3 1 3	
	実 績	2 8 3	
竜 王 町	計 画	8 3	
	実 績	9 4	
愛 荘 町	計 画	4 5	
	実 績	7 8	
豊 郷 町	計 画	2 8	
	実 績	2 6	
多 賀 町	計 画	4 5	
	実 績	4 0	
合 計	計 画	2, 9 6 4	
	実 績	3, 3 5 4	
	計画比	1 1 3. 2 %	

注) 牛異常産三種：アカバネ病、チュウザン病、アイノウイルス感染症

2 家畜検査事業

近年、様々な家畜伝染病の発生地域が世界的に拡大する一方で、畜産物の輸入自由化や国際交流の拡大などにより、新しい疾病の発生や長期間発生の無かった疾病の再発生などの機会が増大している。平成 22 年度には宮崎県での口蹄疫の発生や西日本を中心とした高病原性鳥インフルエンザの多発等により畜産関係のみならず多方面に様々な影響を及ぼす事態となった。口蹄疫並びに高病原性鳥インフルエンザはアジア諸国で発生が続いており、わが国でも、平成 26 年度には高病原性鳥インフルエンザが 4 月に熊本県で、12 月から翌 1 月にかけて宮崎、岡山、山口、佐賀の各県で発生した。このような急性伝染病については、まん延防止対策を迅速に実施するために、病性鑑定のための各種検査を迅速かつ的確に実施し、短時間で診断することが強く求められている。

また、飼料価格・素畜費の高騰が畜産農家の経営を圧迫しており、経営を安定させるために生産性を阻害する要因を除くことが重要な課題となっている。最近の家畜疾病の発生状況は、生産病的慢性疾病が増加傾向にあり、こうした疾病への積極的な対応が要請されている。

家畜保健衛生所では、県下畜産指導機関との連携を密に保ちながら、病性鑑定業務の技術向上を図り、検査材料について、専門分野から精密検査を行い、総合的な疾病診断を実施している。

さらに、家畜検査センターでは、畜産物の品質向上および安全性に関する検査項目も加え、消費者の求めに応じ、安全で安心な畜産物を生産する畜産農家に向けた家畜検査事業を推進している。

1) 病性鑑定実績

畜種	精密病性鑑定		精密検査・調査		合計	
	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数	件数	頭羽群数
乳用牛	60	77	478	3,552	538	3,629
肉用牛	133	171	188	1,504	321	1,675
豚	4	17	33	459	37	476
家禽	19	92	95	555	114	647
馬	4	4	1	10	5	14
めん羊	5	5	3	3	8	8
山羊	1	3			1	3
野鳥	1	1	14	505	15	506
その他	1	1			1	1
計	228	371	812	6,588	1,040	6,959

(1) 精密病性鑑定結果

①乳用牛

診断	件数	頭数
地方病性牛白血病	3	3
BVDV 持続感染牛の疑い	2	2
異常産（流産、原因不明）	3	4
異常産（先天性奇形）	1	1
異常産（原因不明、非感染症）	2	2
異常産（分娩事故、非感染症）	1	1
牛RS ウイルス病	2	9
牛ロタウイルス病 (A 群)	2	5
牛コロナウイルス	1	3
牛尿路コリネバクテリウム感染症	1	1
牛パスツレラ (マンヘミア) 症	1	1
牛壊死性腸炎、エンテロセミアを疑う	1	1
腹膜炎	3	3
疣贅性心内膜炎 (慢性敗血症、栓塞症)	1	1
臍帯炎からの多臓器炎	1	1
心嚢心外膜炎	1	1
化膿性髄膜炎	1	1
腎盂腎炎	1	1
腹腔内出血による失血死	4	4
消化器の捻転・絞扼	3	3
乳房炎	2	5
結腸閉鎖	1	1
熱射病の疑い	1	1
急性鼓脹症の疑い	2	2
脾臓破裂	1	1
下痢症 原因不明	4	5
呼吸器症 原因不明	5	5
死後変化強く原因不明	3	3
その他	6	6
計	60	77

②肉用牛

診断	件数	頭数
地方病性牛白血病	2	2
BVDV 持続感染牛疑い	2	2
異常産（流産、化膿性胎盤炎）	1	1
異常産（先天性奇形）	1	1
異常産（分娩事故の疑い）	7	7
異常産（原因不明、非感染症）	3	3
悪性水腫	4	4
壊死性腸炎	3	3
牛RS ウイルス病	4	20
牛ロタウイルス病 (A 群)	6	7
牛アクチノバチルス症	1	1
牛コロナウイルス病（下痢）	2	2
牛コロナウイルス病（呼吸器）	1	4
ヒストフィルス・ソムニ感染症	1	1
放線菌症	1	1
牛尿路コリネバクテリウム感染症	1	1
牛大腸菌症 (VTEC)+クリプトスポリジウム症	2	2
牛呼吸器症候群	2	12
コクシジウム病	1	1
牛大腸菌症（敗血症）	3	3
牛大腸菌症（VTEC）	1	1
真菌性気管炎・前胃炎	1	1
牛コロナウイルス病 (呼吸器)+ 牛マイコプラズマ肺炎	3	7
<i>Streptococcus bovis</i> 敗血症	1	1
<i>Streptococcus suis</i> による化膿 性髄膜脳炎、敗血症	1	1
牛パスツレラ症	2	2
牛パスツレラ症+牛マイコプラズマ肺炎	3	3
牛ウイルス性下痢 (A 群ロタ、コ ロナ、トロ)	1	2
<i>Staphylococcus xylous</i> による 化膿性腎炎	1	1
牛ロタウイルス病 (A 群)+牛コロ ナウイルス病 (下痢)	1	1
牛ロタウイルス病 (A 群)+牛大腸 菌症 (敗血症)	1	1
急性線維索性肺炎	4	4
線維索性肺炎+化膿性気管支炎	6	6
急性鼓脹症 (疑い)	9	9
腹膜炎	4	4
第4胃穿孔+腹膜炎	3	3
脂肪壊死による消化管通過障害	5	5
疣贅性心内膜炎	3	3
大腸嵌頓	2	2

②肉用牛（つづき）

診断	件数	頭数
尿毒症	1	1
消化管(第1胃～結腸)炎	1	1
化膿性気管支肺炎	4	4
脱水	2	2
出血性空腸炎	5	5
高度肺気腫	1	1
出血性大腸炎	1	1
第1胃食滞	1	1
第2、3、4胃炎	1	1
ルーメンドリンキング	1	1
心外膜炎	1	1
心奇形	1	1
心膿瘍	1	1
化膿性髄膜脳炎	1	1
肺栓塞性肺気腫	1	1
化膿性膀胱炎	1	1
化膿性腎炎	1	1
肺胞腔解放不全	1	1
疣贅性血管内膜炎	1	1
呼吸器症 原因不明	1	4
死後変化強く不明	2	2
不明 所見なし	5	5
計	135	173

③豚

診断	件数	頭数
腎結石、腎盂腎炎、膀胱炎	1	1
胸膜性肺炎	1	1
豚ロタウイルス病(A群)	1	13
軽度肺炎(原因不明)	1	2
計	4	17

④家禽

診断	件数	頭数
主要臓器炎+コクシジウム病+真菌性肺炎	1	10
マレック病+鶏痘+ブドウ球菌症	1	3
化膿性腹膜炎	1	3
鶏回虫、糸虫寄生による産卵率低下	1	5
熱射病+ブドウ球菌症	1	5
鶏コクシジウム病	4	21
卵黄嚢炎+心筋炎	3	13
マレック病	2	10
心外膜心筋炎	1	5
多発性肉芽腫性嚢胞形成(ワクチン失宜)	1	1
鶏大腸菌症	1	5
原因不明(インフルエンザ否定)	1	5
原因不明(感染症否定)	1	6
計	19	92

⑤馬

診断	件数	頭数
腹腔内出血による失血死	1	1
空腸穿孔による腹膜炎	1	1
結腸破裂	1	1
リンパ肉腫、化膿性腎炎	1	1
計	4	4

⑥その他

診断	件数	頭数
鞭虫症(めん羊)(TSE検査)	1	1
糸虫寄生(めん羊)	1	1
発毛不全(めん羊)(TSE検査)	1	1
第1胃内にロープ様異物(めん羊)(TSE検査)	1	1
高度腐敗検査不能(めん羊)	1	1
神経症状原因不明(山羊)	1	3
多発性肝炎(寄生虫性の疑い)(イノシシ)	1	1
化膿性肉芽腫性気管支肺炎(コハクチョウ)	1	1
計	8	10

(2) 精密検査・調査実施状況

①乳用牛

検査・調査	件数	頭数
BSE 検査	129	129
BVD-PCR 検査	72	1,785
BVD 抗原検出 ELISA 診断予防技術向上対策	9	383
BVD 中和抗体価検査	10	100
牛白血病 PCR 検査	17	69
牛白血病リアルタイム PCR 検査	2	39
アルボウイルス抗体調査(アカハネ病)	38	150
アルボウイルス抗体調査(アイウイルス病)	38	150
アルボウイルス抗体調査(チュウサン病)	38	150
アルボウイルス抗体調査(イバラキ病)	38	150
アルボウイルス抗体調査(牛流行熱)	38	150
ヨーネ病リアルタイム PCR 検査	5	27
牛コロナウイルス HI 抗体価検査	1	3
O157 検査	4	7
乳房炎検査	24	230
ビタミン A、E 血中濃度検査	1	16
飼料添加物残留検査	12	12
代謝検査	2	22
計	478	3,572

②肉用牛

検査・調査	件数	頭数
BSE 検査	54	54
BVD-PCR 検査	39	916
BVD 抗原検出 ELISA 診断予防技術向上対策	1	11
BVD 中和抗体検査	6	83
牛白血病 PCR 検査	2	2
牛白血病リアルタイム PCR 検査	3	25
呼吸器病抗体検査(ワクチン効果)	2	14
呼吸器病抗原検索	1	9
アルボウイルス抗体調査(アカハネ病)	13	52
アルボウイルス抗体調査(アイウイルス病)	13	52
アルボウイルス抗体調査(チュウサン病)	13	52
アルボウイルス抗体調査(イバラキ病)	13	52
アルボウイルス抗体調査(牛流行熱)	13	52
ヨーネ病リアルタイム PCR 検査	2	4
代謝検査	7	114
薬剤耐性菌検査	2	2
大腸菌検査	1	3
遺伝病(IARS) 検査	3	7
計	188	1,504

③豚

検査・調査	件数	頭数
豚コレラサーベイランス	3	16
豚豚インフルエンザサーベイランス	1	1
豚流行性下痢抗体検査	23	265
PRRS-PCR 検査	5	176
薬剤耐性菌調査	5	5
計	37	463

④家禽

検査・調査	件数	羽数
AIV モニタリング(ウイルス分離)	48	480
サルモネラ血清型別検査	34	34
飼料添加物残留検査	8	36
薬剤耐性菌調査	5	5
計	95	555

⑤馬

検査・調査	件数	頭数
血液生化学検査	1	10
計	1	10

⑥めん・山羊

検査・調査	件数	頭数
伝達性海綿状脳症検査	3	3
計	3	3

⑦野鳥

検査・調査	件数	羽数
渡り鳥の AIV 調査	14	505
計	14	505

⑧その他

検査・調査	件数	羽数
動物用医薬品品質確保検査	1	1
計	1	1

3 家畜衛生に関する事業

各種疾病による家畜の損耗防止と飼養衛生管理の改善による生産性の向上および家畜畜産物の安全性を確保するため、消費・安全対策交付金のうちの「家畜衛生の推進」を主体に各種事業を実施した。

1) 牛海綿状脳症（BSE）検査・清浄化推進

BSEの清浄性を確認するため、24ヵ月齢以上の死亡牛、生前にBSEを否定できない中枢神経症状等の臨床症状を呈した牛、その他BSE検査を行うことが必要と認める牛について検査を実施した。

183頭実施、すべて陰性

2) 監視・危機管理体制整備対策

飼養規模の拡大と流通の国際化の進展により、伝染病発生時の被害は甚大化することが予想される。正確な家畜衛生情報の収集・分析・発信により、自衛防疫の推進を図り、事前対応型の防疫体制の構築とまん延防止体制の確立を図るため、以下の事業を実施した。

(1) 家畜伝染病防疫対応強化

①飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針普及推進会議

家畜の所有者が飼養衛生管理基準を遵守することによる家畜の飼養衛生環境の向上と、特定家畜伝染病防疫指針に基づく家畜伝染病の発生予防およびまん延防止対策が迅速かつ的確に講じられる体制を構築するため、畜産農家、市町、農業共済組合、農業協同組合、公衆衛生関係者等を対象に地域段階の取り組みを推進する会議を開催した。

開催回数 6回 出席者（延べ）143名

②飼養衛生管理基準・特定家畜伝染病防疫指針指導の推進、普及、強化

農家への立ち入りの際にあわせて飼養衛生管理基準および特定家畜伝染病防疫指針の普及・啓発などの衛生管理指導を実施した。

指導農家数（延べ） 416戸

(2) 家畜衛生関連情報の整備

①情報の収集

家畜衛生に関する情報を、病性鑑定時に行う聞き取り調査等により228戸から収集した。

②広報

家畜疾病の発生情報、調査検査結果、収集情報分析結果および新しい技術の紹介・普及等のための広報紙として、「家畜衛生情報」を発行するとともに、これらの情報は家畜保健衛生所ホームページに随時掲載した。

○家畜衛生情報

・口蹄疫関連

口蹄疫発生情報 3回

口蹄疫防疫対策研修会が開催されます 1回

・鳥インフルエンザ関連

高病原性鳥インフルエンザ情報 20回

・豚流行性下痢関連

豚流行性下痢発生情報 6回

・衛生関連

口蹄疫、鳥インフルエンザ等の防疫対策の徹底を 2回

みつばち飼養者のみなさんへ農薬散布情報に注意しましょう 1回

死亡牛BSE検査情報 3回

家畜の所有者の定期報告書の提出について 1回

牛の異常産を予防しましょう 1回

日本脳炎の予防接種のシーズンです 1回

馬伝染性貧血検査が変わります 1回

③防疫マップの整備

重大な監視伝染病の発生に対応する危機管理体制整備の一環として、農家等の情報を蓄積し、電子地図等にリンクさせて活用できる体制を整え、維持更新に努めた。

FAX網整備

収集した農家情報に合わせ、一斉通報システムのデータ更新等の管理を実施した。

県境防疫会議

- ・平成26年10月3日、当所において、隣接府県（福井県、岐阜県、三重県、京都府、大阪府、奈良県）の家畜保健衛生所と情報交換を行った。

(3) まん延防止円滑化対策

県内での高病原性鳥インフルエンザや口蹄疫の発生を想定して、迅速かつ的確な防疫体制を確立するため、関係機関の職員等による連絡調整会議および防疫演習を実施した。

①連絡調整会議等

開催年月日	検討・協議事項	場 所
H26. 4. 24	県防疫担当者会議	政策研修センター
H26. 6. 12	湖北口蹄疫連絡会議	湖北合同庁舎
H26. 9. 5	湖東地域家畜防疫対策会議	湖東合同庁舎
H26. 11. 7	湖北地域家畜防疫対策会議	湖北合同庁舎
H26. 11. 18	東近江地域家畜防疫対策会議	東近江合同庁舎
H26. 12. 3	甲賀地域家畜防疫対策会議	甲賀合同庁舎
H26. 12. 5	南部地域家畜防疫対策会議	南部合同庁舎
H26. 12. 22	南部地域家畜防疫対策（連絡員）会議	南部合同庁舎
H26. 12. 24	大津地域防疫対策会議	コラボしが
H27. 2. 5	高島地域家畜防疫対策会議	高島合同庁舎

②防疫演習等の実施

開催年月日	内 容	場 所
H26. 8. 28	高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	甲賀合同庁舎、 甲賀市内旧養鶏場
H26. 10. 30	高病原性鳥インフルエンザ全国一斉机上防疫演習	電子メール (畜産課、家保)
H26. 11. 21	湖東地域高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	湖東合同庁舎
H26. 11. 25	東近江地域高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	東近江合同庁舎
H26. 11. 26	口蹄疫防疫対策研修会	コラボ滋賀
H26. 11. 28	湖北地域高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	湖北合同庁舎
H26. 12. 24	県庁口蹄疫および高病原性鳥インフルエンザ防疫研修会	県庁
H27. 1. 28	南部地域高病原性鳥インフルエンザ防疫演習	南部合同庁舎
H27. 2. 12	口蹄疫の全国一斉防疫演習	畜産技術振興センター 電子メール (畜産課、家保、畜産技術振興センター)

(4) 病性鑑定ネットワークの構築

高病原性鳥インフルエンザ等の重要家畜伝染病の検査、診断体制を強化するため、大学・研究施設等を含む病性鑑定施設のネットワーク化を図り、疾病発生時に適切な役割分担の下、迅速な病性鑑定が実施できるように意見・情報交換を行った。

○近畿ブロック病性鑑定ネットワーク協議会

平成26年8月28日 大阪府立大学

3) 生産性向上対策

(1) 慢性疾病等生産性を阻害する疾病の低減

家畜の慢性疾病等の低減を図り、生産性を向上させるため、損耗の多い畜産経営体の生産性阻害状況および衛生状況を調査するとともに、改善のための技術指導を行った。

対象経営体	調査農家戸数	調査検査延頭羽数	調査検査疾病等
牛	1	150頭	牛ウイルス性下痢・粘膜炎
牛	2	66頭	牛白血病
牛	1	1,530頭	呼吸器病
豚	1	2,181頭	豚繁殖・呼吸障害症候群
肉用鶏	1	50,000羽	鶏コクシジウム症、伝染性気管支炎
肉用鶏	1	500羽	鶏コクシジウム症

4) 畜産物の安全性向上

高品質で安全な畜産物の供給を確保するため、生産段階での衛生管理の向上を目的とした農場HACCPの普及と衛生状況の検査による飼養衛生管理技術等の改善指導を行った。

また、食中毒原因菌をはじめとする人獣共通感染症の原因となる病原体等の浸潤状況や動態を調査し、その防除対策の確立に努めるとともに、動物用医薬品の適正な使用・管理について調査・指導を行った。

(1) 生産衛生管理体制整備

畜産農家への農場HACCPの円滑な導入と普及定着を図るため、酪農専門農協をモデル地域と位置づけ、統一的に取り組むことのできる乳質管理をテーマとして、生乳管理チェックシートの記録徹底等について指導を行った。

また、牛ではモデル農家を選定し、農場HACCPの普及に努めた。

○モデル地域実施状況

酪農専門農協の組合員農家13戸を対象として、農場HACCP方式に準じた乳質管理を検討するため、巡回およびバルクタンク乳の細菌検査による衛生状況の把握と問題点の検証を行うとともに、自農場の衛生管理を説明できるよう生乳管理チェックシートの記録などの実施状況の確認や問題点の改善方法を農家と協議し、今後の取り組み目標を検討・設定した。

○モデル農家実施状況（牛）

肉用牛（肥育経営）2農場を対象として、取り組みを支援した。

農場HACCP推進農場の指定を受けている1農場では、外部HACCPチーム員として毎月のHACCPチーム会議に参加し、一般衛生管理プログラム・HACCP計画の実施状況の確認、衛生管理状況の点検、問題点の検証、内部研修における従事者の教育訓練を行った。

他の1農場では、HACCPチームの編成、農家独自の管理記録から農場HACCPの手法を踏まえた記録様式や項目の検討・実施、衛生管理方針の確認などを指導し、農場HACCP認証の取得に向けた取り組みを支援した。

(2) 鶏卵衛生管理体制整備

衛生的な鶏卵の生産体制整備を進めるため、サルモネラの侵入防止および汚染された場合に清浄化を図るための対策を地域ぐるみで検討実施した。

①サルモネラに関する調査・検査

生産者集団の実施する鶏群へのサルモネラ侵入防止対策の一環として、「鶏卵のサルモネラ総合対策指針」(平成17年1月26日付け第8441号農林水産省消費・安全局衛生管理課長通知)に基づき、鶏舎環境および素雛のサルモネラ検査を実施した。

種別	計	調査対象検体数（サルモネラ陽性検体数）					
		送付材料			巡回材料		
		鶏（糞等） 導入時	敷料 導入時	その他	周辺環境		
				鶏舎 (通路・糞上)	集卵室	除糞機材	
種鶏	73 (4)	0 (0)	40 (3)	0 (0)	21 (1)	12 (0)	0 (0)
採卵鶏	1,446 (43)	451 (27)	331 (0)	0 (0)	516 (12)	61 (1)	87 (3)

(3) 動物用医薬品危機管理対策

適正な動物用医薬品の流通、使用を確保するため、販売業者の在庫薬品について、表示、品質検査を行うとともに、家畜飼養者については、医薬品の使用実態調査を実施した。

また、薬剤耐性菌の発現状況調査を行い、抗菌剤等の適正使用を指導した。

①品質検査実施成績

本年度の検査対象品目は、合成抗菌剤であった。

製剤名	製造番号	製造販売業者	検査項目	規格値	定量値	収去場所
レバチオニン	403040	日本全薬工業株式会社	定量 性状 表示	90～120% 黄色澄明	97.3%～ 108.6% 規格どおり	滋賀県 東近江市

②薬剤耐性菌の発現状況調査

全国技術検討会の取り決めに基づき、平成26年度はカンピロバクターを分離して薬剤耐性の発現状況を調査した。

カンピロバクター検査結果・概要

種別	検査検体数	菌分離陽性検体数	分離株数
肉用牛	6	4	8
肥育豚	2	2	4
採卵鶏	4	1	2
肉用鶏	2	2	4
合計	14	9	18

(4)飼料安全性・品質改善対策

安全な畜産物の生産を確保するため、肉牛、乳牛、豚、鶏飼養農家における飼料の使用状況の調査を行うとともに適正使用の指導を行った。

飼料添加物残留検査成績は、調査検体全例陰性で、使用状況も適正であった。

実施地域	採卵鶏			肉用鶏			乳用牛			肉用牛	豚
	巡回戸数	残留検査		巡回戸数	残留検査		巡回戸数	残留検査		巡回戸数	巡回戸数
		検査戸数	陽性		検査戸数	陽性		検査戸数	陽性		
			サルファ剤			サルファ剤			CTC		
大津地域	4			2			2			2	1
湖南地域	8	1	0	1						4	1
甲賀地域	6	1	0	3			11	1	0	8	
東近江地域	17	3	0	5	1	0	37	11	0	72	6
湖東地域	1						7			2	
湖北地域	4	3	0	1			2			5	
高島地域	4			3			7			7	1
合計	44	8	0	15	1	0	66	12	0	100	9

CTC:クロルテトラサイクリン OTC:オキシテトラサイクリン

サルファ剤:ナイカルバジン、スルファキノキサリン

4 動物薬事

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律（昭和35年法律第145号）に基づき、動物用医薬品の適正な製造または販売について監視を行うとともに、動物用医薬品販売業許可申請等の事務処理・立入を行った。動物用医療機器の適正な製造または販売、賃貸、修理業についても同法に基づき監視を行うとともに、許可申請等の事務処理・立入を行った。

また、医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律第69条第2項に基づき、動物用医薬品等の製造業者、製造販売業者、販売業者、医療機器販売・賃貸および修理業者の立入検査を実施した。

1) 申請・届出等の状況

(1) 市町別業者数

(平成27年3月31日現在)

市町名	製造業・製造販売業			医薬品販売業			医療機器販売・賃貸業		医療機器修理業	
	医薬品	医薬部外品	医療機器	店舗	卸売	特例	高度管理	管理		
大津市			1	2		1	3	3	1	1
彦根市				1			6			
長浜市							6			
近江八幡市					1		7			
草津市					1		3		2	2
守山市					7		3		7	2
栗東市				1	5		2	2	4	
甲賀市	3	2	3		5		9		4	1
野洲市					1		2	1		
湖南市							2			
高島市							9			
東近江市				1			7		1	
米原市							1			
日野町							3			
竜王町							1			
愛荘町							3			
豊郷町							2			
多賀町							1			
計	3	2	4	5	20	80	6	19	6	

(2) 申請・届出の事務処理状況

申請・届出の種類	件数						
	製造業・ 製造 販売業	店 舗 販売業	卸売 販売業	特例 店舗 販売業	登録 販売者	高度 管理	管理
許可申請	1		7	3	—	1	6
許可更新申請				3	—		—
許可証書換え交付申請			2	2	—		—
許可証再交付申請					—		—
許可(届出)関係事項変更届	4		7	15	—	2	4
指定品目追加申請	—	—	—	1	—	—	—
休廃止届				4	—		2
販売従事登録申請	—	—	—	—	0	—	—

2) 薬事監視強化事業

(1) 立入検査状況

	製造業・製造販売業			販売業			薬局 (動物 用医薬 品取扱 店舗)	医療機器 販売・賃貸業		修理業
	医薬品	医 薬 部外品	医療 機器	店舗	卸売	特例 店舗		高度 管理	管理	
立入検査 対象箇所	3	2	4	5	20	80	8	6	19	6
立入検査 実施箇所	2	0	1	3	11	49	0	1	7	0

5 獣医事

獣医師法（昭和24年法律第 186号）および獣医療法（平成 4 年法律第46号）に基づく届出等の事務処理および飼育動物診療施設の立入検査により管理獣医師等に対する指導を実施した。

1) 届出状況

(1) 飼育動物診療施設

（平成27年3月31日現在）

市町名	施設数		
	産業動物	小動物	計
大津市	2 (0)	2 8 (2 5)	3 0 (2 5)
彦根市	1 (1)	1 0 (9)	1 1 (1 0)
長浜市	1 (1)	6 (5)	7 (6)
近江八幡市	4 (0)	5 (5)	9 (5)
草津市	2 (0)	1 4 (1 1)	1 6 (1 2)
守山市		9 (8)	9 (8)
栗東市	2 (1 0)	4 (4)	1 8 (1 4)
甲賀市	5 (4)	5 (4)	1 0 (8)
野洲市		4 (3)	4 (3)
湖南市	1 (0)	5 (4)	6 (4)
高島市	2 (0)	4 (4)	6 (4)
東近江市	3 (1)	3 (3)	6 (4)
米原市		1 (1)	1 (1)
日野町	3 (0)	1 (1)	4 (1)
計	3 8 (1 8)	9 9 (8 7)	1 3 7 (1 0 5)

() 内は、X線装置保有施設数

(2) 事務処理状況

事務処理	件数
飼育動物診療施設開設届	5
飼育動物診療施設休止届	0
飼育動物診療施設廃止届	6
飼育動物診療施設届出事項の変更届	24
エックス線に関する届出	
エックス線装置新規設置	0
エックス線装置更新	0
エックス線装置廃止	5

2) 立入検査状況

獣医療法第 8 条に基づき、飼育動物診療施設の立入検査を実施した。

定期の立入検査	0 件
飼育動物診療施設開設時における立入検査	5 件
エックス線装置の取扱いに係る立入検査	0 件
獣医療法第17条広告の制限に係る立入検査	0 件
薬事法第48条毒薬・劇薬の取扱いに係る立入検査	0 件

6 家畜改良増殖事業

1) 家畜人工授精に関する業務

家畜改良増殖法に基づく家畜人工授精師、家畜人工授精所の許可申請等の事務処理を行った。

(1) 家畜人工授精師免許関係事務

家畜人工授精師免許申請	6	件
家畜人工授精師免許書換交付申請	1	件
家畜人工授精師免許再交付申請	1	件

(2) 家畜人工授精所開設等届出

家畜人工授精所開設許可申請	1	件
---------------	---	---

III 参 考 资 料

(参 考)

1 学会・業績等の発表

学会・場所・期間等	演 題	発 表 者
第 5 5 回全国家畜保健衛生 業績発表会 東京都 日比谷公会堂 平成 2 6 年 4 月 2 4、2 5 日	大規模肉用牛肥育農家に対する関係団体 と連携した総合的指導	森川 武司
平成 2 6 年度日本産業動物 獣医学会(近畿) 大阪府堺市 大阪府立大学中百舌鳥キャンパス 平成 2 6 年 1 0 月 1 2 日	滋賀県における肉用牛飼養農家の牛白血 病対策	浅井 素子
平成 2 6 年度滋賀県家畜保 健衛生業績発表会 近江八幡市 滋賀県婦人会館 平成 2 7 年 1 月 2 1 日	養鶏施設を活用した高病原性鳥インフル エンザの実践型防疫演習	山中 美佳
	豚流行性下痢発生予防に向けた取り組み	藤井 賢一
	管内における農場 HACCP 認証取得に向けた 取り組み	田中 政嗣
	繁殖台帳 Web システムを利用した酪農指導	布藤 雅之
	牛白血病清浄化へ向けて	森川 武司
	<i>Salmonella Infantis</i> に対する消毒剤効果 の検討	川本 友香
	牛コロナウイルス感染の関与した呼吸器 病症例	平澤 康伸
	牛呼吸器病より分離された <i>Pasteurella multocida</i> の薬剤感受性	三松 美智子
県内における牛ウイルス性下痢ウイルス 持続感染牛の摘発状況	内本 智子	

<p>第56回近畿ブロック家畜保健衛生業績発表会 兵庫県 兵庫県民会館 平成27年2月13日</p>	<p>養鶏施設を活用した高病原性鳥インフルエンザの実践型防疫演習</p> <p><i>Salmonella Infantis</i> に対する消毒剤効果の検討</p> <p>県内における牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の摘発状況</p>	<p>山中 美佳</p> <p>川本 友香</p> <p>内本 智子</p>
<p>第20回滋賀県獣医学会 草津市 クサツエストピアホテル 平成27年2月22日</p>	<p>牛コロナウイルス感染の関与を疑う亜急性肺炎の一症例</p> <p>牛呼吸器病より分離された <i>Pasteurella multocida</i> の薬剤感受性</p> <p>県内における牛ウイルス性下痢ウイルス持続感染牛の摘発状況</p>	<p>平澤 康伸</p> <p>三松 美智子</p> <p>内本 智子</p>

2 講習会等受講状況

1) 家畜衛生講習会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
総合講習	山路 泰介	動物衛生研究所	H26. 9. 17～H26. 9. 19
海外悪性伝染病	浅井 素子	〃	H26. 9. 2～H26. 9. 5
鶏疾病	田中 千香子	〃	H26. 6. 2～H26. 6. 6
特殊講習会（病性鑑定）	小畑 敦俊	動物衛生研究所 北海道支所	H26. 5. 13～H26. 12. 5

2) 家畜衛生研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
細菌	三松 美智子	動物衛生研究所	H26. 10. 14～H26. 10. 17
ウイルス	内本 智子	〃	H26. 10. 21～H26. 10. 24
生化学	三松 美智子	〃	H26. 10. 28～H26. 10. 31
病理	平澤 康伸	〃	H26. 11. 4～H26. 11. 7

3) 動物用医薬品危機管理対策研修会

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
薬剤耐性菌の発現状況 検査	三松 美智子	動物医薬品検査所	H26. 6. 12～H26. 6. 13

4) その他

研修・講座名	受講者	開催場所	研修期間
農場 HACCP に係る農場指 導員養成研修	藤井 賢一	全国家電会館	H26. 9. 10～H26. 9. 12
農場 HACCP 審査員力量向 上研修	森川 武司	〃	H26. 10. 29～H26. 10. 30

3 家畜衛生関係手数料

(平成27年3月31日現在)

区分	項目	単位	金額	備考
証明書	注射、投薬、薬浴および検査 証明書交付手数料	1 件 につき	700	牛、豚、馬
	証明手帳に記入して証明する 場合		310	”
	輸出される牛肉に係る牛の出生国 および飼育国に関する証明書交付 手数料	1 通 につき	350	牛
	頭数当たり	1 頭 につき	10	”
家畜 投薬 ・ 注射	牛			
	炭疽予防注射	1 頭 1 回 につき	300	流行熱予防液使用 ハダキ病予防液使用
	気腫疽予防注射		450	
	流行性感冒予防注射		400	
	”		400	
伝染性鼻気管炎予防注射 アカバネ病予防注射		540 1,050		
射 お よ び	馬			
	流行性脳炎予防注射 炭疽予防注射	1 頭 1 回 につき	510 280	
薬 浴 手 数 料	豚			
	豚コレラ予防注射 豚丹毒予防注射	1 頭 1 回 につき	190 210	
	流行性脳炎予防注射		480	
鶏	ニューカッスル病予防注射	1 羽 1 回 につき	10	不活化ワクチン使用
	”		5	生ワクチン使用
家畜 検 査 手 数 料	牛			
	結核病検査	1 頭 1 回 につき	260	再検査は徴収しない
	ブルセラ病検査		280	”
	ヨーネ病検査		670	”
	トリコモナス検査		250	
	肝てつ検査		230	
	牛海綿状脳症検査		4,300	
馬	馬伝染性貧血検査	1 頭 1 回 につき	1,300	
鶏	ひな白痢検査	1 羽 1 回 につき	40	
蜜蜂	腐蛆病検査	1 蜂群 につき	60	

区分	項目	単位	金額	備考
家畜人工授精	家畜人工授精所開設許可	1 件	5,700	
	家畜人工授精師免許申請	につき	1,900	
	家畜人工授精師免許証 書換え交付手数料		1,700	
	再交付手数料		1,800	
動物薬事	動物用医薬品販売業			
	許可申請手数料		28,600	
	許可更新申請手数料		10,500	
	許可証書換交付手数料		2,100	
	許可証再交付手数料		3,000	
	動物用高度管理医療機器等販売・ 賃貸業			
	許可申請手数料		28,000	
	許可更新手数料		10,500	
動物用医薬品販売従事者登録 登録申請手数料		7,500		

4 家畜飼養状況（平成27年2月1日現在）の概要

畜種	飼養戸数 (戸)	飼養頭羽数 (頭・羽)	一戸当たり 飼養頭羽数 (頭・羽/戸)	対前年比				
				飼養戸数 上段：増減比% 下段：増減実数	飼養頭羽数 上段：増減比% 下段：増減実数	一戸当たり 飼養頭羽数 上段：増減比% 下段：増減実数		
乳用牛	66	3,350	50.8	97.1 △ 2	94.7 △ 186	97.7 △ 1.2		
肉用牛	計	103	17,790	172.7	90.4 △ 11	100.5 + 80	111.1 + 17.3	
	肥育牛	和牛 (4ヶ月以上の育成牛を含む)	77	12,165	158.0	81.9 △ 17	104.1 + 481	127.1 + 33.7
		肉向乳牛	7	460	65.7	58.3 △ 5	60.1 △ 306	117.3 + 10.0
		F1	28	3,442	122.9	100.0 ± 0	101.8 △ 201	106.5 + 8.0
		子牛 (4ヶ月未満)	35	523	15.0	94.6 △ 2	104.6 + 23	110.4 + 1.4
	繁殖牛 (繁殖目的に飼育している育成牛、子牛を含む)	41	1,200	29.3	95.3 △ 2	107.4 + 83	112.7 △ 3.3	
豚	計	12	7,098	591.5	120.0 + 2	86.4 △1,115	72.0 △ 229.8	
	肉豚 (3ヶ月未満の子豚を含む)	10	6,431	643.1	125.0 + 2	85.4 △1,096	68.3 △ 297.8	
	繁殖豚	7	667	95.3	140.0 + 2	97.2 △ 19	69.5 △ 41.9	
採卵鶏 (100羽未満を含まない)	38	392,323	10,324.3	84.4 △ 7	93.8 △25,795	111.1 +1,032.8		
肉用鶏 (100羽未満を含まない)	9	99,530	11,058.9	90.0 △ 1	131.6 +23,880	146.2 +3,493.9		

